

南砺市 SDGs 未来都市市民会議 議事録

- 【開催日時】 令和6年1月15日(月) 15:30~17:00
【開催場所】 南砺市役所福光庁舎 302 会議室
【会議次第】 1. 開会
2. 議題
(1) 【協議】南砺市の SDGs の取組状況について
(2) 【報告】SDGs 推進に関わる計画の改訂について
3. 閉会

【会議概要】

議題(1) 【協議】南砺市の SDGs の取組状況について
(事務局より説明)

[委員 A]

今回初めて参加させていただいたので、本市民会議の開催目的を教えてください。

[事務局]

SDGs 未来都市計画の中にパートナーシップという言葉があるように、皆さんで支え合って地域をつくっていくために、各分野の方から意見を頂きながら、連携して取組を進めていけるよう、本会議で意見交換をさせていただいている。行政の取組のチェックや市民の取組に繋がる意見、地域で見られる動きの紹介、繋がりを作るきっかけになる場にしたいと考えている。

[委員 B]

・南砺市は国から SDGs 未来都市に指定されているので、その名に恥じないように、県内でも先進的な取組の展開ができていくか議論し、内容を深めるために、この会議があると思っている。説明のあった内容は、行政として認識している取組を可視化して見せていただいているわけだが、さすが南砺市だと思うような事業を本当に展開できているか。SDGs 未来都市に認定された南砺市らしい取組を市民にアピールできるようなものにしていったらよいと思っている。

・新しいものばかりやろうとせず、例えば、木質ペレット燃料事業など目玉商品を作ったのだから、それを育てていかなければいけない。儲かる商売ではないので、経営には四苦八苦しているが、それを行政全体としてどう受け止めているか。やってみせるという意味では、多少お金かかっても仕方がないと思っている。山林に囲まれた南砺市で、木材を上手く活用してエネルギーに変えているということをもっとアピールすると良い。

・(株)林商店さんが最近リユース事業に取り組みましたが、これは SDGs そのものだし、目玉

商品になり得る事業である。地域づくり協議会でも、要らなくなったものをリユースしましょうということをやっている。南砺市の小水力発電も SDGs そのもの。子どもたちに発電所を見学させるなどして学びの機会をつくことも大事だと思う。

・新しいことばかりするのではなく、既にやっている取組をもっと PR していかなければいけないと思っている。やりはじめたことを育てていき、内外にアピールして、さすが南砺市だと思われるようにしていくべき。

[事務局]

南砺市で木質ペレットの啓発に取り組んでいるが中々広まっていけないので、知恵を入れて取り組んでいかなければならないと思っている。南砺市産のペレットを取り扱ってくれる店舗は増えてきている。やっていることをしっかり PR するということが上手くいっていないというのはおっしゃるとおりで、インタビュー記事がどれくらいの方に見えていたのかということ、とても認知が低い状態であるので、PR の仕方は努力していきたいと思っている。

[委員 C]

なんと SDGs パートナーはどれくらいの登録が集まってきたのか。SDGs 未来都市推進実施計画の STEP 3 の段階では、いろんな強み弱みがある企業・団体が一緒になって地域の課題解決やまちおこしに取り組んでいるイメージでいるが、その辺の活動は目に見えているのか。それともこれからなのか。

[事務局]

現在 129 団体（12 月末時点）登録されているが、課題としては、既に地域で活動されている方がパートナーに登録いただけていないところも多い。私たちの伝え方がうまくいっていないところであり、既に地域で取り組まれている方も巻き込んでパートナー制度を進めていかなければいけないと感じている。また、まだ活動できていない方も登録していただいて、動きを見える化していくということも必要だと思っている。現在、まずは地域で取り組まれている方たちの活動を見える化するためにインタビュー記事発信を行っている。

[委員 B]

パートナー制度を作った時に提案したのは、会社が直接的に SDGs に結び付きにくくても、例えばごみを細かく分別するなど、こういう取組を会社全体でやろうと思っている、自分の会社はこれを目玉にして SDGs に参画しようとしているというのを、社員もお客さんにもよく分かるように会社の正面に貼ってアピールすることが大事。そうすることで取組が広がっていくのではないかと思う。そんな看板を市役所で作ってあげればいいと思う。

[事務局]

現在は、のぼり旗、マグネット、ステッカーをお渡ししている。

[委員 B]

それだと何をしているのか分からない。うちの会社はこんなことに力を入れて取り組んでいますというのをアピールしてもらおうと、動きが広まると思う。

[委員 C]

・SDGs カフェでも、地域の居場所づくりや農業と資源循環などをテーマにされているが、これがほんとに上手く回ってほしいと思っている。100 団体以上のパートナー企業が応援したり繋がったりして、ボランティアではなく自分たちの事業として地域に参画することで、地域をよくすることができると思う。

・農業の再生ということを言っているが、SDGs の環境、社会に関係があり、産業という面もある。昨年度は、生産者と加工業者と販売会社と消費者の繋がりが必要だと言っていたが、一番大変なのは農業者の高齢化が進み、ものすごい勢いで農業者が減少していること。そこに新規参入してきたときに、どのように地域や社会が応援できるかが大事。新規参入者はお金がなくて続かない。これこそ南砺市の SDGs の一つのモデルになると思う。ターゲットを絞って取り組み、ここは相当頑張ったとアピールできれば、市民の方たちにも訴求力が出てくるのかなと思う。SDGs パートナーの事業者の方に、農業の再生にどのように協力できるかを聞いたりするのも一つの方策かと思う。それが STEP 3 だと思う。

[事務局]

ペレットの話は林業、今の話は農業で、どちらも大切な産業。生活する側の人たちが市内のものを買う、いわゆる経済循環に繋がるように行動変容を促していかなければいけないと思っている。SDGs カフェなどの場を通して、例えば飲食店の方が市内産の材料を一つでも入れてみるというような動きに繋がるようにしていきたいと思う。

[委員 B]

地域づくり協議会では空き家対策に取り組んでいるが、これは究極の SDGs だと思っている。壊してしまえばゴミになるが、活用してもらえれば SDGs となる。しかし、空き家対策をやっている南砺で暮らしません課では SDGs という意識があまりない。

[事務局]

行政では自分の分野のことを専門的にやっているが、横ぐしとして SDGs が刺さっているということの認識が低い。SDGs といえばエコビレッジ推進課となってしまうっており、行政でやっていること全てが SDGs であると言っているが、上手く伝えきれていない。

[委員 D]

発信するのが難しい話についてだが、SDGs カフェをやるので来てほしいというやり方は人が集まりにくいと思う。幅広く多くの方に興味を持ってもらうとか、SCGs カフェを行っていることを認知してもらうには、短時間開催でもいいから、すでに人が集まっているところで開催するやり方もあるのではないかと思う。例えば、南砺市は農業関係者が〇〇祭というのをよくやっていると思うが、遠方から来る人も多いので、そういった場所を利用させてもらうのもいいのではないか。SNS で発信する方法とともに行ってみてはどうだろうか。

[事務局]

私たちがそれは思っていて、イベント開催する行政や関係団体の方たちと一緒に SDGs の色を付けた企画をやっていきたいと思っている。

[委員 D]

・これまでにやっていたことが SDGs に繋がっていると、意識していない方々がいると思う。ただ言われてみれば SDGs だったのだと再認識しても、「だから？」で止まってしまう。そのままがいいのか、似た取り組みをする人と横の繋がりを持って高めたり広めたりするのか、その必要があるのかないのかなど、そこを繋げてくれるなにかが必要だと思う。

・課題に示されているが、「地域づくり協議会では外国人住民との交流がほとんど行われていない」とある。友好交流協会では国内・国外の繋がりや、現在南砺市に住んでいる外国人に対して取り組んでいるなかで、毎年異文化交流フェスを開催している。以前は海外の文化や交流都市を紹介する内容だったが、近年は住民である外国人をメインにする内容に変わってきた。こういった場所があるので、そこに地域づくり協議会の方にも参加してもらえばよいと思う。南砺市の外国人は散在している。つまり、各地区に居住していることになる。ぜひ、各地区の方々に興味を持って交流するきっかけにしてもらえればと、考える。異文化交流の面白さから、つながりが始まる機会を活用するといいなと思っている。

[事務局]

地域の文化祭でも住民の方の活動発表の場などがあるので、そんなところに参加してもらえるといいなと思っているが、まだそのような状態にはなっていない。

[委員 B]

先日の能登半島地震では、各企業の外国人研修生について、敷地内に寮があるようなところは安否確認できていると思うが、会社から離れた市営住宅や民間のアパートに住んでいる外国人の方に声を掛けられていないのではないか。地域づくり協議会でも声を掛けられていない。誰も手を差し伸べられていない状況になっていないか。

[委員 D]

・昨日にほんご広場を開催した際に、外国人の方に、地震の時にどこにいて、どんな気持ち

で、どんな情報が欲しかったか、どうやって情報をとったかという話をした。寝ていた方や家族で神社に行く途中だったという方、アラームでびっくりして飛び起きた方、母国の家族と電話をしながら「外に出なさい」と言われて慌てて外に出た方などがいた。寮にいた方は、水漏れがあったが、社長や寮母さんに連絡をしてすぐに来てくれた。ショッピングモールにいた方は、電車が動くかどうかは頭にはなく、家に帰れるかが不安ですぐに社長や担当の方に電話をして迎えに来てもらっていたとのことで、しっかりコミュニケーションが取れている会社もあり安心した。「余震もあるかもしれないから何かあればまた電話してきて」「避難所の場所はここ」と教えてくれている会社もある。日が浅い外国人の方は地震の経験がないので、動画を撮っていた方もいたが、周りが頭を抱えているのを見て、そうするのかなと思う方もいた。ただ、被害が大きかったらどうしたらよいか分からないとおっしゃっていた。

・防災については、以前水害について市と一緒に公聴事業を行ったが、地震も同じことだと思ったし、新しい外国人の方も入ってくるので、1回やったからいいでは済まないなと思った。訓練を行うときは、日本人と外国人の方も一緒に行う機会をつくることで、備えは誰にでも必要だという認識と、助け合うことに繋がっていくと思う。

[事務局]

南砺市には外国人の方は約 1,000 人おり、守らなければいけない市民・コミュニティなので、アイデアをいただければ防災の担当に伝えてやっていきたいと思うし、外国人の方と地域のコミュニティと繋がる方法を考えていきたい。

[委員 D]

外国人の方は、何をすべきか分かれば、守られる側ではなくて守る側として頼れる方たちになると思う。

[委員 C]

やりがいを持つことで南砺市が第二の故郷になってもらえると思う。守ってあげるだけではだめで、役割や繋がりをもってもらうことで、きっといいまちになると思う。

議題 (2) 【報告】SDGs の推進に関わる計画の改訂について (事務局より説明)

[委員 E]

・SDGs 未来都市を南砺市の市政を運営していく上での大きな柱として位置付けている以上、南砺市民にそれを知ってもらって、市民に誇りとして思ってもらえるような形をとると良いと思う。市民に見える化するために、SDGs 未来都市のシールやワッペンなど何か見

えるデザインを作って、イベントや各取組で常時発信できる仕掛けをとっていただいたり、例えば、ペレットを使用することが、SDGs 未来都市の構想の中でどう関わっているのかを見える化する仕掛けをとっていただきたい。

・地域の次世代を担う子どもたちに、南砺市はこんなことやっているいいまちなんだよと誇りに思ってもらえるようにする。そのためにはワークショップなどいろんな形で学校と連動していくことも大事だと思う。また、外国人や移住者、外から南砺に関わってくれる人が、南砺はこんなことやっているんだよと言えるように見える化して、誇りと思ってもらえるようなものにする。例えば、道の駅で売られている商品に SDGs 未来都市の構想に則った農業やものづくりと分かるようにして、南砺のブランド商品と SDGs 未来都市の構想を上手く連動させる。自分たちが SDGs に取り組んでいることを、海外から来られた方に対してもグローバルに繋がりうるものと感じてもらい、子どもたちや外から南砺に関わってくれている人、関わり始めている人に、見てもらい感じ取ってもらえるような仕掛けをしてみたら良いのではないか。他には、例えば営農組合にも関わってもらって、減農薬などに取り組んでいることが、遠くから南砺の里山を見たときに分かるように何か仕掛けてあげること、南砺が SDGs 未来都市としての取組をしていることが分かる。

・能登半島地震の被害を受けた珠洲市の里山の景観は、北陸にある日本の大きな遺産だと思う。それを災害からどうやって守るかということは、南砺でも共通の課題になりうるので、そういう目で災害に対する捉え方をしてもらおう。そういうことをするためにも南砺の SDGs 未来都市を南砺市民に見える化し、個人の取組が SDGs に直結していることを見える化することによって、SDGs 未来都市推進実施計画等の組み立てをしていただきたいと思う。

[委員 F]

・前回の会議でも子ども食堂の話をさせていただいたが、通常営業ではお子さんに無料でご飯を提供しているが、それに加えて、イベント的に1~2ヶ月に1回ほど子ども食堂を行ってきた。そういう場があると、普段お客さんとして来られない方がいらっしやったり、来られた方同士で仲良くなったり、一つの居場所となっているのではないかなと思う。集まった人同士で情報交換できたり、困っている事を言い合えたり、アドバイスし合えたり、どんどん繋がりができていると感じる。そういった繋がりを通して、個人の幸福度や満足度が上がっていけば、人が自然に増えていくのではないかなと思う。大人が楽しそうにイキイキ過ごしていると、子どももここにずっといたい、また戻ってきたいと感じると思うし、人との繋がりの中でこういった感情が生まれてくると思う。

・ペレットや農業の話があったが、身近ではない人にとっては情報が入ってこない。そういった情報はイベントなどの場があれば、詳しい人に繋がる機会になると思う。

・子ども食堂ではなくても、食のイベントがあればいろんな人が集える場になると思うし、そこが居場所になるので、無料もしくは安く食べることができる場が頻繁にあればいいなと思っている。

[委員 G]

・色んな分野の項目があるが、ほとんどが商工会に繋がると思うので、商工会に投げかけていただければと思う。例えば、農産物の販売とか飲食店のことなど。投げかけてもらえれば発信もできる。また、商工会でもイベントを実施しており、防災に関しては自衛隊や警察の方に来ていただく出前出張などもやっているの、そこに入れていただくこともできる。

・会社のほうでもなんと SDGs パートナーに登録しているが、ステッカーとかのぼり旗を作るときに補助していただけるといいなと思う。のぼり旗2つだけだと足りない。

[委員 B]

吉澤委員からも意見があったように、道の駅で販売している物に貼ってある生産者の名前や値段が書いてある紙に、「SDGsに参加しています」「南砺市は SDGs 未来都市です」と記載するなど、SDGsに取り組んでいることが分かるようにするのは良いと思う。

[事務局]

南砺市で生活をしていて SDGs を目にする機会が少ないと思うので、目にする機会を増やすことは大事だと思っている。

[委員 F]

ペレットストーブや薪ストーブを学校に配置することはできないのか。子どもたちが薪をくべるとかできれば、親世代にも伝わると思う。子どもたちが知って体験して人に話すことで、広がっていくのではないかと思う。

[委員長]

なんと SDGs パートナーで意識の差が出ていると感じる。イオンモールとなみで行った SDGs フェスというイベントで、パートナーの取組展示をしたのが2社だけであった。SDGs パートナーに登録するまではどんな方でもできるが、協力してくれるか、取組を明確にしてくれるかはまた別の話だと思う。SDGs を推進していくには、住民の方やいろんな方の協力がある中で、企業の協力は一番大きいと思っている。イオンの展示を子どもが見て、自分のお父さんが働いている会社が出ていると関心を持ってくれると思う。企業がやる気になっていただけるような呼びかけが必要だと思う。パートナーになったことを PR するだけで終わっている企業が多い。実践する企業を育成するための種まきが必要だと思う。

[委員 B]

今後ものすごい人口減少が起こり、農業でも担い手がなく耕作放棄地が目に見えて増えている。現在全国で始まっているのが副業。日本人の給料が低いと言っているが、会社も給料を大幅に上げることはできないので、副業をしてもらえばよいと思う。地域で人手が足りない農業などを手伝うことで助け合うことができる。市役所で率先してやることで、民間企業

にも広がっていく。

[事務局]

本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。頂いた意見は見える形にして、広く取り組んでもらえるよう呼び掛けていきたい。今後も SDGs に関して何かあればエコビレッジ推進課まで言っていただければと思っている。地域の中で SDGs に携わっている皆さんですので、これからもよろしくお願ひしたいと思っていますし、行政とも連携していただければと思っているので、今後ともよろしくお願ひします。

[委員長]

以上で本日の会議を終了します。ありがとうございました。